

西海ブロック水産業情報

NO. 73 (平成23年4月～6月)

増養殖情報

山口県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県
<p>記載事項無し</p>	<p>●豊前海 ・5月中旬より青壮年協議会他が主体の抱卵ガザミの再放流活動を実施。 ●有明海 (増殖) 有明海漁業振興技術開発事業で、クルマエビ放流を実施。6月14日～22日に50mmサイズ、200万尾を福岡県地先で放流。 (養殖) カキ殻糸状体の培養を開始してから、6月で約3ヶ月が経過した。5月まで生長はやや遅れ気味であったが、生長は平年並みに近づいてきた。胞子嚢の形成程度は3～4割。現在までのところ、病気・障害は見られていない。</p>	<p>●玄海 【試験研究】 ・沿岸地先3カ所で、4月からウニ食害種防止柵と母藻投入による藻場回復試験を開始。8月からは、鉄鋼スラグを投入し、海水中の鉄イオン濃度分析を開始予定。 【種苗生産】 ・カサゴ:成長は低水温の影響で平年に比べやや遅れたが、5月中旬に育成用10万尾(全長45mm)、6月下旬までに放流用など約12万尾(全長50～60mmサイズ)配布。 ・アカウニ:4月下旬までに1万個体(殻長3～5mmサイズ)、約105万個体(殻長8～12mmサイズ)配布。 ・ナマコ:6月末現在、アオナマコ約50万個体(体調8～18mmサイズ)、アカナマコ約55万個体(体調4～12mmサイズ)飼育中。 ●有明 【研究の動向】【水産資源関係】 ・タイラギ調査・漁獲物動向調査(市場調査)を実施。 【水産海洋・漁場保全関係】 ・浅海定線調査、漁場環境モニタリング調査(底質、マクロベントス)、サルボウ適正生息環境調査(水質)、貝毒分析(カキ) 【水産増養殖関係】 ・タイラギ干潟移植試験、放流アゲマキ追跡調査、アサリ・サルボウ生息量調査 ・養殖マガキの付着密度比較試験およびカゴ飼育比較試験 ・沖合域におけるモカイ殻 散布耕耘試験の追跡調査 ・サルボウの浮遊幼生等調査 【その他】 ・有明水産振興センターのホームページに漁況情報として、大浦カキ採苗試験情報、タイラギ生息状況速報、海況関連情報を追加しました。 【水産業の動向】【水産資源関係】 ・ガザミ、クルマエビは不漁。タイラギ(平成22年級群)は6月下旬から大牟田沖で完売がみられている。 【水産海洋・漁場保全関係】 ・4～6月の水温は、平年よりやや低めで推移した。 ・4～6月の比重は、平年よりやや高めで推移した。 【水産増養殖関係】 ・サルボウについては、漁期前の現存量(漁場全体の平均生息重量密度)としては昨年より多いものの、身入りが悪い状態が続いている。その理由として、昨年末から2月中旬にかけて水温が平年より1～3℃低めに推移したこと、3月以降の降水量が平年の4割程度と少なく、サルボウの餌となる植物プランクトンの量(クロロフィルa量)が少なかった等があげられる。 ポイル後の歩留まり(殻付き重量に対するポイル後の剥身重量の割合)が昨年の20～25%に対して15～17%と低いため、目の大きなジョレンを用いて漁獲されていることから、6月末現在の漁獲量は昨年の1/2程度となっている。 ・平成22年度のノリ養殖の生産は、秋芽網期が生産枚数7.6億枚、生産金額95.1億円、平均単価12.53円、冷凍網期が生産枚数15.0億枚、生産金額140.0億円、平均単価9.34円、総計が生産枚数22.6億枚、生産金額235.0億円、平均単価10.41円となり、枚数、金額共に平年(H5-21)を上回る結果となった。</p>	<p>○有明海漁業振興技術開発事業 【メイタガレイ】4月上旬に2次飼育後の全長45mmの稚魚約8,000尾を島原漁協に輸送し、中間育成委託試験に供した。 【コウライアカシタビラメ】6月上旬に全長30mmの稚魚28,000尾を取上げ、継続して2次飼育を実施後、6月27日に中間育成委託試験用に全長40mmの稚魚4,000尾を島原漁協に輸送、同29日に11,300尾(全長38mm)を有明海小長井地先に放流した。 ○良質な種苗の生産技術開発研究事業 【クエ】6月1日にホルモン処理による成熟促進で、採卵を実施し、現在種苗生産を実施中。 【カワハギ】5月下旬～6月上旬に自然産卵によって得られた受精卵を用いて種苗生産を開始し、現在1次飼育(6～10mm)を実施中。 ○安全・安心の確保 養殖ヒラメのクダア属粘液胞子虫感染実態調査実施中(6月下旬～)</p>	<p>・6月から年末出荷用クルマエビの池入れが開始された。池入れ時のPCR検査ではPRDV陽性個体は発見されていない。7月中に1ヶ月目のPCR検査を行う予定。 ・養殖ヒラメクダア調査実施中</p>

鹿児島県	宮崎県	大分県	沖縄県
<p>カンパチ種苗生産:3月に早期採卵で生産した種苗43千尾を試験養殖中。 スジアラ種苗生産:6月採卵分を20トン2面、7月採卵分を60トン2面で生産中。</p>	<p>●マサバ 5月23日にホルモン打注し、同25日に回収した浮上卵約15万粒を使用して、5KL水槽にて種苗生産試験を行い、6月16日(21日令)に1,065尾を取上げ、同時に選別(大、中、小の3群)を行った。平均尾叉長約28mm、平均体重約0.16g。ふ化からの生残率は約1.2%であった。 ●魚病の発生状況 ・養殖カンパチにおいて、OTC耐性のピブリオ病が発生。当歳魚で死亡が確認された。 ・カワハギにおいてβ 溶血性連鎖球菌による攻撃試験(1回目)を実施したところ、病原細菌を105～7CFU/尾接種した試験区は、48時間以内に全数死亡した。また攻撃菌の濃度を低くした試験区を設定し、攻撃試験を実施したところ、病原細菌を102～3CFU/尾接種した試験区は、2日以内に全数死亡。LD50 は102CFU/尾未満と考えられ、本細菌はカワハギに対し非常に毒性が強いと示唆された。</p>	<p>4月～6月の赤潮発生状況は、以下の5件であり、漁業被害はなかった。 <i>Cochlodinium polykrikoides</i> による赤潮:豊後水道猪串湾 1件 <i>Heterosigma akashiwo</i> による赤潮:別府湾大在埠頭 2件 別府湾別府観光港 1件 豊後水道佐伯湾 1件</p>	<p>モズク養殖:芽出し時期の天候不順と収穫期(5月)に接近した台風の影響で収穫量は低調の様相(須藤に確認して下さい)</p>